



WEEKLY REPORT

Rotary 東京立川ロータリークラブ 2019.8.30 第2852回 例会

2019～2020年度 RIテーマ



2019～2020年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

ロータリーは
世界をつなぐ

2019～2020年度 クラブテーマ

Restart!

創立60周年 第2ステージの始まり
2019-2020

東京立川ロータリークラブ
会長 長井 守



【会長挨拶】 長井 守 会長

先週の例会で7人の新会員が入会され、全体事業の1つの目標である120名を超え121名となりました。関係委員会の皆様には感謝申し上げます、また新会員の皆様の入会を歓迎致します。今日は立川・サンバーナディ/姉妹市委員会・派遣高校生帰国報告会です。姉妹市提携60周年ですが、その経緯と活動についてお話させていただきます。

1954年アメリカのアイゼンハワー大統領が、都市提携運動「People to People Program」(市民から市民への交流計画)を提唱し、それに伴い都市提携運動は一層普及しました。立川市とサン市は面積・産業・交通等類似点が多かった事から、立川航空基地情報部に姉妹市緑組の幹旋依頼があり、1959年12月23日都市緑組締結され、1960年には文化・経済等の交流を通じての両市民の親善と理解、世界平和達成への貢献を目的とし、立川市姉妹市委員会が結成されました。立川の姉妹都市提携は、東京都では初めての試みでした。

姉妹市活動のハイライトとして計画された両市高校生の親善交換訪問は、1962年6月23日、サン市の高校生3名が立川市を訪れて以来の制度です。彼らは1ヶ月に渡り立川市の高校生・市民との交流を行って帰国しました。それに伴い、立川市の高校生3名もサン市を親善使節として訪問しました。しかし1964年には市内部に意見の相違が生じ、中止となりました。当時基金の大半は市の援助に依存していたためです。将来の世界市民としての青少年の育成といった高遠な理想の元に発足した事が、僅か2年にして摘み取られてしまう事は黙視し難く、東京立川ロータリークラブ全員が立ち上がって姉妹市事業の継続のため、全会員から拠出金を募る等、必死の努力の結果、市当局並びに各種団体の理解と協力を促す所となり、1965年再開される事になりました。

その後、毎年度両市の交換高校生事業は促進され、市民にも広く認知される制度として現在に至ります。当クラブとしては1990～91年度の竹川会長・村野幹事年度からとお聞きしておりますが、東京立川ロータリークラブのメンバーに承認されると、自動的に姉妹市委員会の特別委員になり、1人1万円の年会費を収め姉妹市委員会を援助し続けております。両市の交換学生達が異なる文化や言語の壁を乗り越え里親家族と過ごす事により、貴重な知識と経験を得る事は一生の宝となる事でしょう。国際平和と友好、親善が末永く続くと共に、姉妹市提携60周年を迎え、ご尽力されてきた両市の姉妹市委員会並びに関係者の方々に心から敬意を表し、当クラブとしてもこの意義ある事業を継続的にご支援させて頂く事をお約束すると共に、両市及び両市民の交流が益々発展する事を、祈念致します。

最後に伝えたい事、それは五感、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚を是非磨いて下さいという事です。更に付け加えると、仏教には五根と言って、五感に伴う感覚器官で仏教修行の根本を表す言葉があります。五感を鍛えるという事は、人間修行の根本と言っても良いのかも知れません。私も先輩方や若い人達と席を共にする時、多くの刺激を受け、不甲斐ない自分を猛省しつつ、まだまだ修行の身であることを実感します。異文化交流で得た多くの体験や、この先に訪れる無数の出来事によって起こる感覚や感触を、存分に自分自身の中に感じ取ってください。大人になると自らが決断しなければならぬ場面が多くなります。貴方達が1つ1つ感じた思いは、人生の引き出しとなって必ず生きていきます。多くの経験、そして何よりもその若さは最大の武器です。今後の貴方達の活躍を心から期待しています。

【お客様の紹介】長井 守 会長

- 梅澤武男 様 (東京サンライズ夕留RC 50周年記念式典実行委員会 委員長)
- 金丸清泰 様 (東京立川こびしRC)
- 市川和子 様 (立川・サンバーナディ/姉妹市委員会 委員長)
- 猿渡梨彩 様 (立川・サンバーナディ/姉妹市委員会 副委員長)
- 杉田真彩さん (吉祥女子高等学校1年)
- 篠崎菜月さん (国際基督教大学高等学校2年)
- 三井玲奈さん (拓殖大学第一高等学校2年)
- 岩田風澄さん (東京都立昭和高等学校2年)



長井 守 会長

【司会進行】

SAA委員会 中島重夫 委員

【開会点鐘】

長井 守 会長

【国歌斉唱】

【ロータリーソング斉唱】

『それこそロータリー』

【お客様の紹介】長井 守 会長

【会長挨拶】長井 守 会長

【お客様ご挨拶】

東京サンライズ夕留ロータリークラブ
5周年記念式典実行委員会 委員長 梅澤武男 様

【幹事報告】中山賢一 幹事

【ニコニコ発表】

親睦委員会 安藤永一 副委員長

【出席率の発表】

出席委員会 金原宏和 委員

8月30日(金)	会 員 数	121名
	出席義務会員	113名
	出席免除会員	8名
	当日出席者	98名
	出席免除会員の当日出席者	2名
	出席率	85.22%
	8月16日(金)	休会

【立川・サンバーナディノ 姉妹市委員会 帰国報告会】

【司会進行】

国際奉仕委員会 織原寛一郎 委員長

【フードライブ活動報告】

社会奉仕委員会 田中 太 委員長

【閉会点鐘】

長井 守 会長

例会場:パレスホテル立川(立川市曙町2-40-15)
 例会開催日:毎週金曜日 開会点鐘 12:30
 会報担当者:小林 寛
 発行者:長井 守

事務局:立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階
 【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666
 【HP】http://www.tachikawa-rc.org/
 【E-mail】ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp



司会進行 中島重夫 SAA委員
 ニコニコ発表 安藤永一 副委員長
 出席率の発表 金原宏和 委員
 帰国報告会 司会進行 織原寛一郎 国際奉仕委員長



例会時には必ずバッジをつけましょう

【お客様ご挨拶】

東京サンライズ汐留RC

5周年記念式典実行委員会 委員長 梅澤武男 様

来る10/17(木)に、東京サンライズ汐留ロータリークラブの5周年記念式典が行われます。是非楽しい時間を過ごして頂ければと思っております。申込書を用意しましたので、是非皆様にご参加頂ければと思います。



【幹事報告】 中山賢一 幹事

●米山記念奨学会からのハイライト米山、各テーブルに配布●多摩中グループIM第2回実行委員会が9/5(木)、たましん小金井支店で開催予定●10/6(日)～7(月)創立60周年記念山歩会登山・木曾駒ヶ岳開催予定。当日環境保全委員会と山の美化運動も開催予定。来週の例会終了後説明会開催●9月中クールビズ継続●8/30(金)第1回クラブ協議会がホテル日航立川にて18:30から開催



【ニコニコ発表】 親睦委員会 安藤永一 副委員長

- 立川・サンバーナディノ姉妹市委員会 委員長 市川知子様 本日は、学生の帰国報告にお招き頂きありがとうございます。
- 長井 守 会長 姉妹市委員会市川委員長を始めとするゲストの皆様のご来訪を心より歓迎致します。
- 中山賢一 幹事 派遣高校生3名の皆様本日の帰国報告会宜しくお願致します。
- 大高 均さん 榎戸岩雄氏、かしわゴルフ研修会優勝おめでとうございます。次回はいつお祝いできます事やら…。
- 浅見英明さん 栗原さん入会おめでとうございます。ロータリーライフを楽しんで下さい。
- 織原寛一郎さん 派遣高校生の皆さん、本日は宜しくお願致します。

本日合計 34,000円 本年度累計 778,000円

立川・サンバーナディノ姉妹市委員会 派遣高校生 帰国報告会

【委員長ご挨拶】 立川・サンバーナディノ 姉妹市委員会 委員長 市川和子 様

お陰様で姉妹市委員会も60周年を迎え、今年は4名の女子がサンバーナディノに行って参りました。6/23(日)に4名の学生が日本に来て、それぞれの家庭に1ヶ月滞在し、7/27(土)と一緒にサン市に向かい、8/18(日)に元気に帰国致しました。

今年もサン市の委員会から2週間程後、私にとっても良いメールが届きました。「Sunkids are best every day smile and talk to us all of the time.」と書いてあります。「サンキッズは笑顔でいつも皆に話しかけてくれてとても良い子だ。」という意味です。立川から行った学生をサン市の子どもと言う意味でサンキッズと呼ばれ、サン市から来た学生は立川の子どもという意味でタチキッズと呼んでいます。そしてそれから帰国する3日程前に、「We just love the Sunkids. They are just so beautiful inside and outside.」学生たちは内面ばかりでなく、態度や色々な面がとても美しく、私達は彼女達がとても好きです。」と言うメールが来ました。

皆さん立派に成長して帰って参りましたので、帰国報告をお楽しみ下さい。そして一人は学校が始まり、本日発表が出来ないので代理の篠崎菜月さんが代読します。宜しくお願致します。



【帰国報告】

吉祥女子高等学校1年 杉田真彩さん

ホストシスターのアンジェリーナと過ごした2ヶ月間、ホストファミリーと過ごした1ヶ月間は私の人生観を変える素晴らしいものとなりました。このような特別な経験をさせて頂く事が出来たのは皆様のご支援のおかげです。委員会の皆様、ロータリークラブの皆様を始め、立川市その他このプログラムをご支援頂いている方々に心から感謝申し上げます。



正直アンジェリーナと会うまでは期待よりも不安の方が断然大きかったです。緊張してしまうと私は中々素の自分が出せないし、行動力に自信がなかったからです。そんな自分が嫌いで、それを克服したいというのが今回このプログラムに応募した理由の一つでした。ところが、面倒見が良くて天真爛漫で明るいアンジェリーナと私はすぐに馬が合い、そんな不安は一気に吹き飛びました。少し前までは全くの他人だったのに、日を経るごとに友達、親友、そして姉妹になっていきました。一緒に買い物に行くと、見た目が全然違うのにも関わらず、「姉妹ですか?」とよく聞かれました。「違いますよ。」と否定しながら、とても嬉しかったのを覚えています。

アンジェリーナと母が京都の実家に行ったとき、私は期末テストがあり一緒に行く事ができず、家に残っていました。1人っ子の私は普段なら1人であるのが普通なのに、なぜか冗談を言い合ったり、お互いの服を着てファッションショーをしたりする相手がないことに違和感を感じました。アンジェリーナは既に私にとって大切な存在なのだとそのとき改めて気が付きました。

そしてあっという間に1ヶ月は過ぎ、アメリカに行く日が来ました。アンジェリーナという心強い存在はありましたが、やはり緊張していました。しかし、ヘンズリー家は常に明るく賑やかで、とても楽しい家族でした。私が一番好きなのは、私をゲストとしてではなく本当の家族のように扱ってくれました。そのおかげで私も彼らを本当の家族のように感じる事ができました。また、彼らから貰ったとても印象的なものがあります。それはあだ名です。お父さんが私に似ているからと、スターウォーズに登場する獣の「チューバッカ」など、結構ユニークなあだ名を沢山付けてくれました。どんなあだ名で呼ばれても私のことだと分かるのは自分でも不思議でした。私は元々呼びやすい名前ということもあってあだ名が一つも無かった為、これは特別な思い出の一つです。

彼らはいつも「日本の家族を連れてまた来てね。」と言ってくれました。私の父は音楽会社のソニーで働いていますが、アメリカにもソニーはあるから転勤してくれば良いよ、と真面目な顔で言ってくれ、とても温かい気持ちになりました。また、私は日本の大学に行くか、海外の大学に行くかまだ決めていませんが、アメリカの大学に行くなら絶対家を使ってね、と心強い言葉を貰いました。

実際にアメリカに行ってみて、日本とアメリカの文化の違いは本当に沢山ありましたが、中でも印象に残っているのは、アメリカの「受け入れる」文化です。日本とは違ってアメリカには沢山の民族、宗教の人が住んでいます。そのような違いは当たり前で、それを何も気にせず交流しています。一見普通のことのように思えますが、単一民族国家の日本にはそのような考えがあまり無いと感じます。冒頭で私は「中々素の自分を出せない」と自分の嫌いなところを述べましたが、私がアメリカで接した多くの人は自分を表すとき、嫌いなところではなく好きなところを教えてくださいました。日本の普通の会話でそんなことを言ったら自己中心的な人と思われるかもしれませんが、自分の好きなところをすらすらと言えるなんて素敵だと思いました。そしてそれは社会がそれぞれの人間を認め、受け入れているからこそ成り立つことなのだと思います。

幼い頃から英語を習っていた私は英語が大好きでしたが、忙しさを習い事も辞め、いつの間にか英語は「学校で習う教科の1つ」になっていました。もちろん教科書に載っている文法も大切ですが、英語の本質を忘れていたような気がします。でも実際にアメリカに行き沢山のひとと話すと、人によって少しずつ違う発音や、英語特有のブラックジョーク、皮肉など、1つ1つが私にとって

いつもとは違う体験で、本当に楽しかったです。しかしこれは私が英語のネイティブスピーカーではなかったからこそ楽しめたことだと思います。他言語を学ぶ意義はそこにあるのではないかなと私は考えます。

アメリカで過ごした1ヶ月は英語の楽しさを思い出させてくれました。空港での別れは本当に辛かったです。またどこかで会うことを誓いました。アンジェリーナは、たとえアメリカ時間が夜中の3時でもフェイスタイムで連絡を取ろうねと涙を流して言っていました。約束通り夜中の3時ではありませんが、毎日のようにフェイスタイムで、お互いその日あったことなどを話しています。2ヶ月も一緒に住んでいたのに、話が尽きないのは不思議です。

帰国した翌日、スーツケースから荷物を取り出していると、見たことのない封筒が入っているのを見つけました。よく見てみるとそれは4つあってそれぞれに番号がふってあり、「真彩へ」と英語で書いてありました。#1と書いてある封筒を開けると、アンジェリーナからの手紙が入っていました。涙で視界がぼやけて読むのに何分もかかりましたが、読み終わったときには私はこの2ヶ月で何事にもかえがたいものを手に入れられたと確信しました。

最後になりますが、今回ご支援頂いた皆様、本当にありがとうございました。これから青年クラブの一員として精一杯協力をしていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

国際基督大学高等学校2年 篠崎菜月さん

まず初めに、今年の夏、私は本当に貴重で楽しく、一生の思い出に残る経験をする事が出来ました。そしてそれは私の家族とホストシスターを始め、立川とサンバーナディノの委員会の方々、先輩方など多くの人達の支えがあったからこそ成り立ったものでした。本当に心から感謝しています。ありがとうございました。こんなにも充実していて、たくさんの人達によって受け継がれてきた伝統的なプログラムに参加出来た事、サンバーナディノというアメリカの遠い地に新たな家族ができたことを心から嬉しく、また誇りに思っています。



空港にソフィアを迎えに行った最初の日、本当に緊張していたのを覚えています。そして、今まで自分とは全く違う環境で生活していた子だから、もし日本での生活が合わなかったら、自分の英語は拙いから全く話せないかもしれない等、挙げたらきりがなような不安を抱えていたのを覚えています。その数時間後、赤い立川Tシャツを着たソフィアと会いました。その時相手の緊張した様子も伝わってきて、今まで考えていたような不安はソフィアも一緒なんだと分かりました。そして早く仲良くなりたいと思い、積極的に話しかけたら、少しずつソフィアも心を開き、素を見せるようになってくれました。ソフィアは私のよく分からない様な英語でも耳を傾けてくれました。

日本に居た時に一番印象的だったのはディズニーホテルに泊まった夜の事です。夕飯後、皆でディズニーストアにグッズを買いに行き、ホテルへの道を歩いていた時に彼女が笑顔でHappyと言ったことです。日本語でHappyは何と言うのかと聞かれ「幸せ」と教えるなど、たわいの無い会話をしながら帰った時のことが、私にとって本当に大切な思い出になりました。そして、言語の壁を乗り越えて絆を深めるのは容易な事だと学びました。また、ソフィアはとても自立した子でした。実は私は今までの生活で親に頼っていたことが沢山ありました。だから何でも自分でこなす彼女を見て、同じ年だから私もしっかりしなければいけないと刺激を受けました。ソフィアが篠崎家の一員になってくれて本当に嬉しいです。

そして次は私がソフィアの家族の一員になる番でした。彼らはとても緊張していた私を温かく迎えてくれました。ソフィアのお母さんはメキシコ出身で、とても陽気な人でした。いつも笑顔を絶やさず、音楽のある所ではいつでも踊りだし、沢山ジョークを言うてる、そんな楽しいお母さんがとても大好きでした。そしてお父さんは他人の前では静かだけど、家族の中にいるときは少しくレイジーでとても面白い人でした。とても優しくて沢山話しかけてくれ、沢山会話をする事ができました。2人はとても仲が良く素敵な夫婦でした。

そして2人共とても忙しいのに、私のために時間を作ってくれ沢山の場所に連れて行ってくれました。本当に2人には感謝してもしきれません。一番私が好きだったのはサンフランシスコに行った事です。サンフランシスコはお父さんとソフィアが生まれ育った町で、綺麗な海と高層ビルが並ぶ都会がある街です。中でもお父さんの行きつけの店で食べたクラムチャウダーがとても美味しかったです。アメリカではホストファミリー以外にも沢山の人達と関わる機会を持つ事ができました。ソフィアのいとこのファミリーとは何回も出かけました。また友達や他の親戚の人とも関わる事ができました。そして私がアメリカで暮らして、特に印象に残ったことは、家族仲がとても良いという事です。家族のメンバーにはストレートに愛を表現します。年の近い男女の兄弟でさえ抱き合ったり、車で寄りかかって寝たりしていました。日本では中々見ることのできない光景だと思いました。また、エレベーターや店の中で初めて会った人にでも挨拶をし、会話をしていたことも印象に残っています。私はそんな人と人との距離が近いアメリカの文化が大好きになりました。



アメリカでの1ヶ月を通して私はアメリカ、そしてメキシコの料理、行事、人柄、文化など沢山の事を学びました。この経験は私の価値観を大きく変えてくれました。そして人生も大きく変えてくれるものになると思います。既に英語をもっと勉強しようという気持ちになっています。次にアメリカに行くときは成長した自分で彼らに会いたいと思います。別れは辛かったけど絶対またアメリカに行きたいと思っています。

今後は自分の様な経験をプログラムの後輩達がしていけるように、できる限り全力でサポートしていきたいと思っています。最後にサポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。

拓殖大学第一高等学校2年 三井玲奈さん

この度は立川を代表する派遣生として多くの応募から選んで頂きまして、誠にありがとうございました。この2ヶ月間、私は普通の高校生ではあまり体験することが出来ない貴重な経験をさせて頂きました。今回、このような機会を与えて下さった委員会の方々を始め、各団体の皆様には、本当に感謝申し上げます。



マイケルのお母さんとお姉さんは過去に派遣生という事もあり、マイケルは日本にとっても興味を持っていました。マイケルに初めて会った時の印象は、とにかく大きく私の家に入れるか心配でした。そして次第にマイケルの大きさに慣れ、マイケルは体型と同じように内面もとても優しく包んでくれるような優しいお兄さんになりました。試験中だったこともあり、私の母と2人で様々な日本の観光スポットに行き日本の歴史などを沢山学んでくれました。また日本食にも意欲的に挑戦し、全ての食べ物に関心を持っていましたが、母が豆腐を冷奴として出した時に「No No No!」と言って断固拒否をして、流石のマイケルでも苦手なものがあるのかと思いました。私はその顔が忘れられません。

そして日本を去る日、私は今までにはないくらい緊張をしていました。これから1ヶ月間、英語ばかりの生活を無事に過ごすことが出来るのか?アメリカの食生活などに慣れることが出来るのか?など沢山の不安を抱えて渡米しました。しかし、ロサンゼルス空港に着いてその心配は杞憂に終わりました。なぜなら私とマイケルを迎えに来てくれたアビラファミリーは、とても優しく笑顔で私をハグしてくれたからです。私をアビラ家の一員として、何の不安も無く迎え入れてくれたのです。アビラ家ではいつもジョークが飛び交い、私は毎日笑いが止まらず、すんなり馴染むことが出来ました。



お母さんはサンバーナディノの委員会の役員で、常に8人の面倒を見てくれとても大変そうでしたが、疲れた顔を一切

見せずに見守ってくれました。私はそんなお母さんが大好きで、いつもお手伝いをしていました。お母さんは日本食が大好きなので、お好み焼きやマイケルの好きなハヤシライスなどを沢山作りました。お母さんは「美味しい、美味しい」と食べてくれました。私たちが到着してから間もなく、アメリカでウェルカムパーティーが開かれました。私達は浴衣を着て参加しました。そこにはマイケルの3人の甥っ子も来てくれました。初めて会う日本人に少し緊張していましたが、すぐに慣れてくれてとても嬉しかったです。

サンバーナディノシティホールでは、サンバーナディノ市長さんの秘書の方に、サンバーナディノの歴史や文化について沢山教えて頂きました。私を感じた日本とアメリカの違いは食べる量の違いです。例えば早朝ハンバーガー屋さんで朝食を食べる機会があり、私はあまり食欲が湧かずポテトのスマールサイズが限界でしたが、家族はハンバーガー3つと大盛りポテトを軽々と平らげていてとても驚きました。滞在中も外食に行く機会が多く、すべてが車移動なので運動もせず帰国後体重計に乗ることがとても恐ろしかったです。

アメリカで過ごした日々はあっという間でした。最後の週末は家族皆でディズニーランドに行きました。マイケルのお姉さんのジェニファーが、私に大谷翔平君のユニフォームを買ってくれたので、そのお気に入りの服でディズニーランドに行きました。日本とはまた違った夢の国で心が弾みました。最初私のホストブラザーが男の子だったので、ジェニファーと買い物やコスメなどの話ができ、彼女は私にとってとてもかけがえのない存在になりました。彼女と婚約者のブラインは私のことをとても可愛がってくれて、色々な所に連れて行ってくれました。私はお兄さんだけでなく、お姉さんも出来た気がします。

私はアメリカに行く前は自分が何になりたいか決めておらず、ただ日々を過ごしているだけでした。しかしアメリカで過ごす時間はとても充実しており、新しい発見ばかりでした。アメリカに行ってアピラ家に会い、自分自身が大きく成長することが出来ました。自分の将来やりたいことも少し見えてきました。こんな私を温かく迎え入れてくれたアピラ家には感謝してもしきれません。そしてアピラ家と2ヶ月間過ごすきっかけを下さった姉妹市委員会の方々、親の会の方々、そして六団体の皆様に感謝申し上げます。今度は新たな派遣生に、この取り組みの素晴らしさを伝えられる様に努めて行きたいと思えます。本当にありがとうございました。

東京都立昭和高等学校2年 岩田風澄さん (代読:篠崎菜月さん)

1ヶ月、イザベラが我が家に先に滞在している間に、私とイザベラは既に本当の姉妹の様な関係になっていました。アメリカの家族のことも、既に沢山聞いていて、いくつかは、「Secret!来てのお楽しみね。」もありましたが、アメリカに行ったらどんなことをしたいか、どこに行きたいかも一緒に話し合っていたので、私は楽しみな気持ち一杯で渡米しました。



そして実際、丸1ヶ月ホストファミリーと過ごした時間は、全てが特別でした。私のホストファミリーは素晴らしい場所に沢山連れて行ってくれました。私が訪れた場所の全部がとても素晴らしい所だったので一番決めることは出来ませんが、私のお気に入りの場所はラスベガス、エンゼルススタジアム、ナッツベリーファームです。ラスベガスでは、3つの素晴らしいショーを見ることが出来ました。エンゼルススタジアムのツアーでは、大谷翔平選手が会見を行った部屋や試合中に座るベンチに私も座ることが出来ました。ナッツベリーファームでは、園内にある全てのジェットコースターに乗ることが出来ました。これらのどこに行っても感じることは、アメリカ人達の歓喜の表現の大きさです。日本人は何か素晴らしい物を見ると、拍手をしますが、アメリカ人は言葉に出して感動を表します。表情も豊かで、私はいつも楽しそうなアメリカの皆の声を聞くと、一層ワクワクしました。マームは特にジェスチャーも大きく、運転しながらも、話しながら、ついハンドルから手を離してジェスチャーをしてしまうので、最初は驚きました。家族と一緒に家でのおんびり過ごした時間も大好きでした。私が一番好きだったことは、寝る前の時間です。ダッドが毎晩おや

すみのお決まりのフレーズを言ったあと、スペイン語で子守唄を歌ってくれます。子守唄を歌う時は私にハグをずっとしてくれます。イザベラにも弟のジアーニにもいつもそうしていました。スペイン語は覚えられなかったけど、メロディーはずっと記憶に残っています。また、マームが私の名前を呼ぶとき「カザーミ」だけでなく、「ハニー」、「スウィティー」、「ベイビー」と呼んでくれたこともすごく愛情を感じました。イザベラが日本に滞在していた時から、イザベラは私にハグを教えてくれて、お互いにハグをして欲しい時のサインを決めました。スキンシップで愛情を伝えることが当たり前の中育ってきたイザベラにとって、日本にいた間はスキンシップが少ないことが寂しかったことでしょう。アメリカでは、家族がいつも私にハグをして私を幸せな気持ちにしてくれました。

アメリカは何もかもが大きく、家も広ければ冷蔵庫も洗濯機も大きく、スーパーでの買い物も1週から10日に1回まとめ買い。夕飯も、買って来たものを食べたり外食が多く3食必ずしも取らない日もありました。洗濯は5日に1回でした。なので、家族と過ごす時間が沢山とれるのではないかと思います。日本では毎日細かいことが多く、母もいつもせこせこしていて余裕がない様に見えます。私がアメリカに滞在中、ダッドは小学校の先生なので夏休み中は仕事がなく、マームも1ヶ月仕事を休んでくれました。これも日本では考えられなくて、家族だけでなく、社会的な違いがいろいろ関係しているんだと思います。

日本とアメリカで社会や文化も表現方法も違うことが分かりましたが、今回の姉妹都市交流を通して家族や友人、周りの人たちと積極的に交流することの楽しさや、真心を持って接することの大切さを学びました。また、今までは大学に行っても勉強したいことがないと思っていましたが、もっともっとちゃんと英語を勉強して、英語表現出来る様になりたいと思う様になりました。

委員会の方々やロータリークラブの皆様、このプログラムを支えてくれて、このような特別な機会を与えて下さった全ての人に心から感謝しています。そして、立川市とサンバーナディノ市のこのプログラムは本当に素晴らしいので、日本の弟だけでなく、アメリカの弟にもこのプログラムに参加して欲しいです。私は絶対にこの体験を忘れません。本当にありがとうございました。

【フードドライブ活動報告】

社会奉仕委員会 田中 太 委員長



8/23(金)ガバナー公式訪問例会時に社会奉仕委員会 田中 太 委員長によるフードドライブ活動(夏編)が、昨年度に引き続き実施されました。例会開場前には特設デスクが設けられ、担当委員会による受付開始と同時に多くの会員から品物が提供されました。全体の品物重量は250kgとなり、例会終了後に品物は箱詰めになり、フードバンク立川へ寄贈されました。次回は年末を予定しています。

～もったいない!をありがとう!～

フードドライブ活動(夏編)～善意の250kg～

